



コスタリカ国草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 2

2016.4.1

～考える普及員～

NPO 法人イフパット 研究員 小林沙羅
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

プロジェクト開始から約1カ月が経ちました。その後、オロティナ市のファシリテーターチームと第二回目の会合を開きました。今回は新たに農牧省のオロティナ支所からも3人の農業普及員が会合に参加しました。最初彼らは「自分たちは商業用の農家しか支援しない」、「栽培のために種などを配り、技術指導をするのが自分たちの仕事」と発言し、生活改善とは関係ない態度でした。これに対し、チームのメンバーは「生活改善はお金を稼ぐためではなく、日々の生活の中の課題を解決することを目指している」、「改善を積み重ねた結果、最終的にはお金を稼ぐ活動に至るかもしれないが、生活改善はプロセスを重視しており、まずは身の周りの小さな改善から始める。」と説明しました。農牧省の中央レベルでは日本で生活改善を学んだ職員を中心に生活改善アプローチの全国展開が始まっており、政策上でも生活の質の改善を唱えています。一方で、現場ではまだ種や肥料を配布し、農業生産向上を目指す普及スタイルが根強いことがわかりました。

この日の会合では、課題解決を支援するためのファシリテーターの役割、課題発掘のための参加型ツールについて紹介したのですが、その中でもチームのメンバーが行政官として様々な援助(日用品や食糧の配布、インフラ建設など)をしてきたものの状況が変わっていない点について議論が出ました。生活改善アプローチがカウンターパートの機微に触れるには、この点が共有できればと考えていたので生活改善のプロジェクトを始める良い動機づけとなりました。

いきなり議論から入った会合、最初はどうなることかと思いましたが、現場でファシリテーターとして関わる意識の温度差がわかったと同時に、生活改善アプローチを学び続けてきたチームは技術移転、生産向上だけでは農村の暮らしが良くならないという思いのもと、生活改善を自分の言葉で説明出来、チームが同じ方向を向いているのがわかりました。ずっと続けてきた普及スタイルを変えるのは簡単ではないはずですが、ただ今までの方法で本当に農家の生活が良くなったのか？を考えるきっかけがプロジェクトになればと思います。生活改善を実践するために、こちらの人達はよく「Cambio de mentalidad（意識の変容）」と言います。この変容は対象の農村女性だけではなく、ファシリテーターとして関わる普及員、行政官の意識でもあるのだと実感した会合でした。

最終的に農牧省の普及員は、チームの説明に納得したのか今後もプロジェクトに参加する意思を表明しました。



オロティナ市役所、農村開発省、保健省から成るファシリテーターチームの面々です。



仲が良くいつも冗談を言い合っています！